

案内標識 事例集

外国人旅行者にも分かりやすい 整備のポイント



令和2年3月
長野県観光部

1. 本書の概要

(1) 趣旨

外国人旅行者の増加に伴い、“インバウンド大県”を目指す長野県では、外国人旅行者の受入における様々なトラブルの抑制、受入側の負担軽減と共に、旅行者の満足度向上を目指して、外国人旅行者にも分かりやすい案内標識の整備を促進しています。

こうした整備を進めるにあたっては、観光庁「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」をはじめとした指針があり、長野県においては「長野県案内標識整備指針」として、令和2年に関係する指針等を整理したところです。これらの指針を参照することによって、案内標識の表記や設置方法等を一貫した基準で設計することができる状況にあります。

しかし、近年の県内における整備状況を見ると、一定の多言語表記は進んでいるものの、必要箇所に設置されていない、デザインや表記が最適なものになっていないなど、必ずしも「分かりやすい案内」になっているとは言えない状況にあります。この要因としては、整備主体が旅行者目線で設計していない、そのための知識が十分ではない、といったことが考えられます(※)。

この問題にあたるため、本書は外国人旅行者目線ではどのような案内標識の整備が求められるのか、実際の整備事例をもとに具体的なポイントを示しています。案内標識を整備する自治体や観光支援組織、また観光・交通事業者の皆様におかれましては、先にあげた国や県の指針を参照すると共に、本書を通じて具体的な整備方法をお考えいただければ幸いです。

※長野県「外国人にもわかりやすい案内標識の調査」(平成30年度)報告書より

(2) 構成

本書は以下のとおり構成されています。

1. 本書の概要	(本ページです)
2. 案内標識を整備するときに必要な考え方	最初にお読みください。
3. 整備の実践 (1) 連続性を保つ (2) 見つけやすく (3) 分かりやすく	地域の状況や問題意識、整備予定の案内標識の内容等に応じて、関連する部分を適宜ご覧ください。
4. 整備にあたっての留意点	周囲の景観やユニバーサルデザイン対応など、整備全般においての留意点をご確認ください。
5. 維持管理にあたっての留意点	適切に維持管理するポイントをまとめましたので、参考にしてください。

各事例紹介の凡例

事例 ① 複数ルートでの起点での案内

改札を出た直後の移動ルートを示す



地域	長野県松本市
設置状況	JR松本駅の改札を出た正面の床面
タイプ	床面シート

外国人モニター評価
見つけやすさ 3.2 理解しやすさ 3.5

改札を出た直後の案内として、ここではお城(右)、観光案内所(奥)、アルプス方面(左)という旅行者の移動先を強的に示しており、迷いにくくなっている。

ここでは、観光客にとって最も重要な目的地である「松本城」については、床面サイン以外に複数の案内標識を設置しており、さらに利便性を高めている。

※床面サインは一般に目に留まりにくいという課題があるものの、ここでは改札から一定の距離をとり、入の行き来が多くない位置に設置することによって、十分に「見つけやすさ」のある案内内になっている。

その案内標識が主にどのような目的で設置されているものかを示す

整備された地域や状況などの情報

外国人旅行者に分かりやすい案内標識にするためのポイント

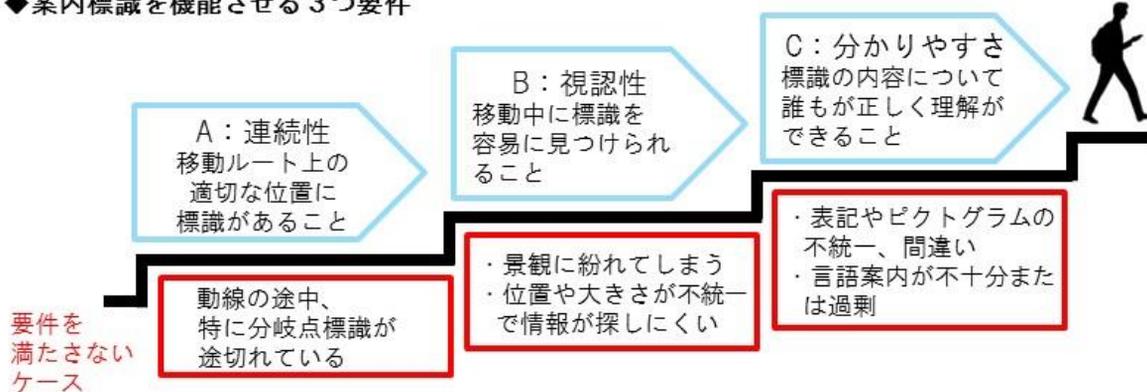
長野県「外国人にもわかりやすい案内標識の調査」(平成30年度)で調査対象とした案内標識については、同調査における外国人モニター視点の評価(「見つけやすさ」「理解しやすさ」をそれぞれ1~最良4点で評価)を記載

2. 案内標識を整備するときに必要な考え方

(1) 3つの要件を満たす

案内標識を機能させるには、原則として「連続性」「視認性」「分かりやすさ」の3つの要件を満たさなければなりません。整備にあたっては、その地域を訪問した人の視点で、これらの要件を満たすことを考えることが重要です。本書はこの3要件ごとに整備のポイントを整理しています。

◆案内標識を機能させる3つ要件



誰の目線で考えるのか？

上記3要件を満たすにあたり、「誰の目線で考えるか」が重要になります。例えば「旅慣れた日本人の若者」より、「はじめて日本を訪問した外国人旅行者」のほうが、より丁寧に分かりやすい案内標識を必要とするといえます。本書では、後者の目線で整備のポイントを示しており、その工夫の多くは日本人を含む幅広い旅行者にとって移動しやすい環境づくりにつながると考えられます。

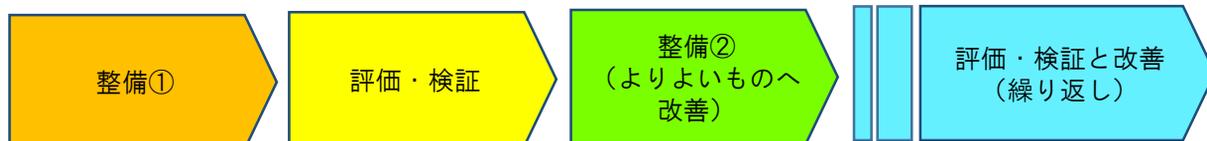
案内標識という公共の目的に照らせば、言語圏の違いをはじめ、年齢、性別、体格、障害の有無などにかかわらず誰にとっても分かりやすいものを整備することが理想的です。またそうした理想を目指して整備された地域は、特定の人だけでなく、幅広い人にとってストレスの少ない、快適な場所になることが期待できます。外国人旅行者目線での整備は、こうした理想に近づく方法のひとつとして捉えることが重要です。

(2) 検証と改善

県内ではすでに多くの地域で、外国人旅行者を想定した案内標識の設置や表示内容の改定が進んでいます。しかし案内標識の整備は「ここまでやれば充分」という水準が定まっているわけではありません。整備したつもりでも外国人旅行者にとっては分かりにくいものであったり、外国人旅行者の増加や旅行スタイルの多様化によってすでに整備した内容に不備や改善点がみつかることはよくあります。

整備水準の向上は一朝一夕にいくものではなく、整備したうえでそれがうまく機能しているかを検証し、よりよいものに改善していくことが重要です。本書の示すポイントは、こうした既存の案内標識の検証と改善点の洗い出しにおいても利用いただけます。

<案内標識の整備水準を向上させるプロセス>



3. 整備の実践 (1) 連続性を保つ

案内標識を整備するとき、まずは旅行者の移動ルート上で「案内が求められる地点」(あるべきところ)に確実に案内標識を整備し、案内の連続性を保つという視点が必要になります。このことで移動ルート上の案内を切れ目なく続けることができます。「案内が求められる地点」は主に下記の3つが考えられます。それぞれの地点ごとに、案内すべき内容を伝えることが求められます。

地点	重要性	案内すべき内容
①複数ルートの起点  <p>改札付近、バスターミナル、視界が急に広がる場所(通路の出口付近など)</p>	最も高い	観光目的地ごとの、乗場・出口といった移動先(総合的な案内が必要になる)
②ルートの分起点  <p>旅行者の多い通路や市街地の分岐点、階段やエスカレーターの手前など</p>	高い	バス乗場、出口、駅などの移動先の方向、そこまでの距離など
③ルート途中の一地点  <p>道路、通路、散策路などの途中</p>	状況による ※ ※「情報なしに人が不安なく歩ける距離は、概ね150~300メートルといわれており(中略)不安を感じない間隔となるよう配置を検討する」(長野県案内標識整備指針 歩行者案内編 p.26)	エリアやルートの名称、観光目的地までの距離など

案内が求められる地点の例

起 点：JR長野駅

移動先：

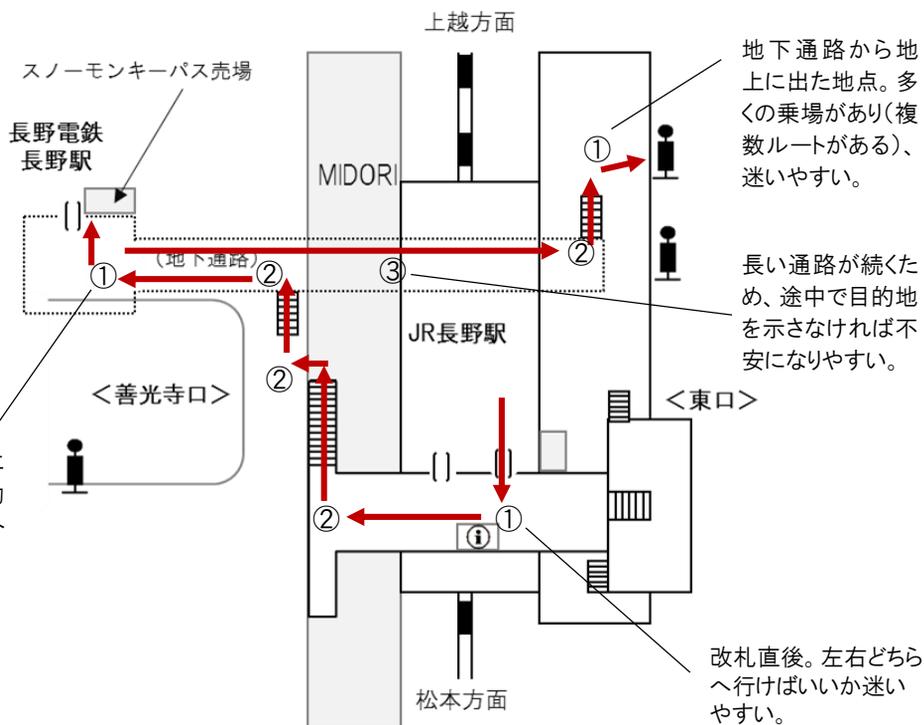
- 1) スノーモンキーバス売場
- 2) バス乗場

この移動ルート为例にとって、上表①②③の地点を示した。

→ …旅行者の移動ルート

- ① ……複数ルートの起点
- ② ……ルートの分岐点
- ③ ……ルート途中の一地点

通路から駅に入った地点。急に視界が広くなり、左右・奥と移動できる範囲が増える(複数ルートがある)ため迷いやすい。



長野県案内標識整備指針(歩行者案内編)での関連パート

■配置方式 (p.24)

- ・人の移動パターンを把握し、適切な位置に情報を配置する必要がある
- ・基本型を考えると以下の4つに整理できる ①階層配置/②線条配置/③軸線配置/④投網配置

■配置か所 (p.26)

- ・案内標識の配置は、移動の起点及び主要な分岐点ごとに行う
- ・情報なしに人が不安なく歩ける距離は、概ね150~300メートルといわれており、(中略)不安を感じない間隔となるよう配置を検討する

3. 整備の実践 (1) 連続性を保つ

事例

①複数ルートの起点での案内

改札を出た直後の移動ルートを示す



地域

長野県長野市

設置状況

JR長野駅の新幹線改札を出た正面の壁面

タイプ

壁面設置看板

- ・大きな鉄道駅の改札を出た直後では、そこからどちらへ行けばよいか迷いやすく、旅行者にとっての主要な観光目的地とその移動先を示すことが重要である。
 - ・JR長野駅では善光寺、白馬、志賀高原、地獄谷野猿公苑など、新幹線を利用して長野駅へ到着する旅行者にとっての主要な観光目的地ごとに左右どちらへいけばよいかすぐ分かるようになっている。
- ※この事例では、改札を出たときの視線の先に設置してあるため、位置的にも見つけやすい。

事例

①複数ルートの起点での案内

改札を出た直後の移動ルートを示す



地域

長野県松本市

設置状況

JR松本駅の改札を出た正面の床面

タイプ

床面シート

- ・改札を出た直後の案内として、ここではお城（右）、観光案内所（奥）、アルプス方面（左）という旅行者の移動先を端的に示しており、迷いにくくなっている。
- ・ここでは、観光客にとって最も重要な目的地である「松本城」については、床面サイン以外に複数の案内標識を設置しており、ルートの起点としての案内機能をさらに強化している。

※床面サインは一般に目に留まりにくいという課題があるものの、ここでは改札から一定の距離をとり、人の行き来が多くない位置に設置することによって、十分に「見つけやすさ」のある案内になっている。

外国人
モニター評価

見つけやすさ 3.2 理解しやすさ 3.5

3. 整備の実践 (1) 連続性を保つ

事例

①複数ルート of 起点での案内

改札を出た直後の移動ルートを示す



「タクシーのりば」 「観光案内所」 「バスターミナル」

旅行者の主な移動先

外国人
モニター評価

見つけやすさ 3.8 理解しやすさ 3.8

地域

長野県山ノ内町

設置状況

長野電鉄湯田中駅の改札を出てすぐ正面出口の上部

タイプ

吊り下げ看板

・この地点では、旅行者にとって主要な移動先は観光目的地へ向かうバスとタクシーの乗り場、および観光案内所となっている。案内標識で、この3つを大きく表示しており、迷いにくい。

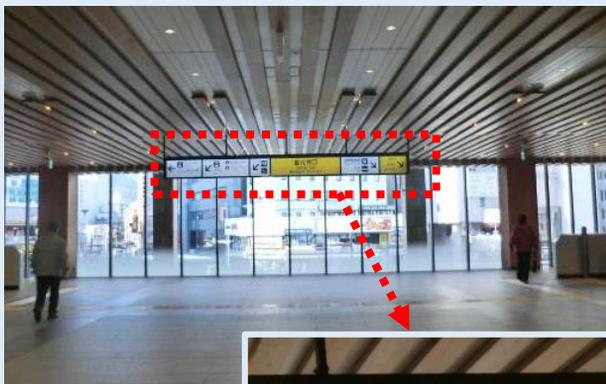
※ここでは3つの移動先を別々の看板で案内しているが、出口が広く吊り下げ看板が目立つ状況にあるため、3つの看板が同時に目に入り、見つけやすく理解しやすい形になっている。

※壁や柱のスペースは狭く、ここに案内標識を掲示しては視認性が低くなる。

事例

②ルート of 分岐点での案内

駅構内から出口への分岐を示す



外国人
モニター評価

見つけやすさ 3.3 理解しやすさ 3.2

地域

長野県長野市

設置状況

JR長野駅コンコースから善光寺口へ向かう階段手前

タイプ

吊り下げ看板

・この地点では、旅行者にとって主要な移動先は「善光寺口のバス乗り場」と「長野電鉄長野駅」の2つとなっている。分岐点でこの移動先の方向を表示しているため、迷いにくくなっている。

※観光目的地の表示があれば分かりやすくなる（「善光寺口のバス乗り場」からは善光寺や戸隠が、「長野電鉄長野駅」からは地獄谷野猿公苑が主な観光目的地になる）。この例では観光目的地の表示はないが、改札前（「複数ルートの起点」）で観光目的地ごとの移動先を案内しているため、案内に大きな支障はないと考えられる。

3. 整備の実践 (1) 連続性を保つ

事例

②ルート上の分岐点での案内

駅構内から出口への分岐を示す



外国人
モニター評価

見つけやすさ 3.7 理解しやすさ 3.0

地域

長野県長野市

設置状況

JR長野駅コンコースから東口
口へ向かう階段手前

タイプ

吊り下げ看板

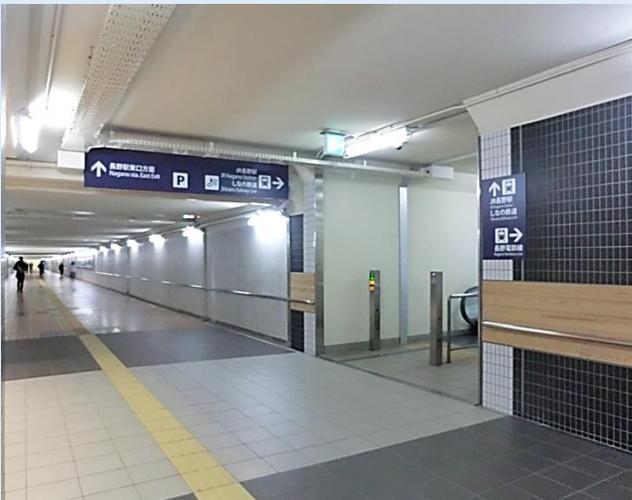
- ・ 一直線に進むコンコースの出口は、正面左右と道が分岐するため、その直前で方向を案内することが重要となる。
- ・ JR長野駅では、旅行者の多くが目指す「東口のバス停」「タクシー乗り場」へ向かうには1階へ降りる必要があることを示し、分岐で迷わないよう配慮している。

※ここでは、バス停やタクシー乗り場という表示だけでなく、白馬、志賀高原などの観光目的地の表記もあればより分かりやすい案内標識になるといえる。

事例

②ルート上の分岐点での案内

通路の分岐点での案内



外国人
モニター評価

見つけやすさ 2.7 理解しやすさ 2.5

地域

長野県長野市

設置状況

長野電鉄長野駅とJR長野駅をつなぐ地下通路の分起点

タイプ

吊り下げ看板、壁面パネル

- ・ 通路が分岐する場合、旅行者の移動先がどちらにあるかを案内する必要がある。
- ・ ここでは「長野電鉄長野駅」「JR長野駅」「長野駅東口」という3つの移動先が示されており、分岐点で旅行者が迷わないようになっている。
- ・ どの方向から分岐へ至っても目に入るように案内標識を整備することも重要。ここではいずれの方向から歩いてきても目に留まるよう、吊り下げ看板と壁面パネルの2つを設置している。

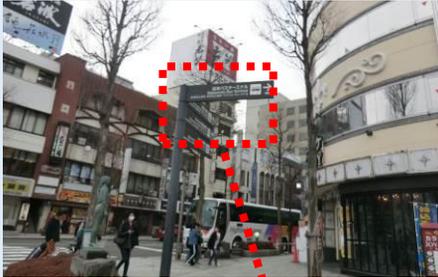
※「長野駅東口」は志賀高原や白馬といった観光目的地の地行きのバスが発着しており、そうした観光目的地の表示があればなお分かりやすいといえる。

3. 整備の実践 (1) 連続性を保つ

事例

②ルートの分岐点での案内

街中で迷いやすいポイントにおける案内



外国人
モニター評価

見つけやすさ 2.7 理解しやすさ 3.7

地域

長野県松本市

設置状況

松本駅・松本バスターミナル
周辺の横断歩道のある交差点

タイプ

矢羽根看板

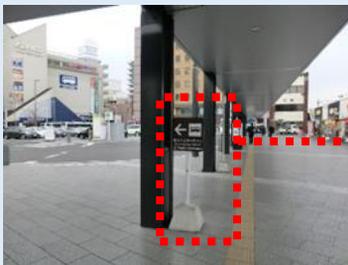
- ・街中の交差点のように多くの移動ルートが交錯する場所では、矢羽根看板によって複数の移動先の方向と距離を示すことが効果的である。
- ・ここではJR松本駅を出た旅行者の多くが通る交差点において、そこからの主要な移動先（「松本バスターミナル」や「松本城」など）ごとに方向と距離を案内している。

※松本市街地の矢羽根看板は同じデザインで統一され、迷いやすい分岐点ごとに設置されているため、移動しやすい環境になっている。

事例

②ルートの分岐点での案内

街中で迷いやすいポイントにおける案内



外国人
モニター評価

見つけやすさ 2.5 理解しやすさ 3.5

地域

長野県松本市

設置状況

JR松本駅から松本バスターミナルへ向かう屋外ルート上

タイプ

ポールスタンド看板

- ・旅行者が迷いやすいルートがひとつだけ想定される場所では、そのルートだけを案内すればよい。
- ・ここでは「JR松本駅から松本バスターミナルへ向かう」という一方・ひとつだけの移動先に特化し、そのルート上で曲がるべきポイントに案内標識を設置している。

※矢印で方向を示すことに加えて、「この先で道路を横断する」「目的地までOkm」といった移動のための情報があればなお分かりやすくなる。

3. 整備の実践 (1) 連続性を保つ

事例

③ルート途中の一地点での案内

通路がどこへ通じているかを示す



外国人
モニター評価

見つけやすさ 2.3 理解しやすさ 2.0

地域

長野県長野市

設置状況

長野電鉄長野駅とJR長野駅とをつなぐ地下通路の壁面

タイプ

壁面パネル

- ・ 散策路や通路などが長く続き、移動先まで歩く距離が一定以上ある場合(※)は、ルート途中で「どこへ向かっているのか」「そこまでの距離」などを示す案内標識が必要になる。
- ・ ここでは駅と駅をつなぐ地下通路の途中で、左右の通路がどこへ通じているかを示すと共に、マップで通路の全体像を示している。

※「情報なしに人が不安なく歩ける距離は、概ね150～300メートルといわれており(中略)不安を感じない間隔となるよう配置を検討する」(長野県案内標識整備指針 歩行者案内編 p.26)

事例

③ルート途中の一地点での案内

観光目的地まで誘導する



観光目的地までの距離、徒歩での所要時間を表示

外国人
モニター評価

見つけやすさ 2.3 理解しやすさ 3.0

地域

長野県山ノ内町

設置状況

湯田中駅前から地獄谷野猿公苑まで向かう路上

タイプ

プレート

- ・ 交通拠点から観光目的地まで長く歩く場所では、ルート上に一定間隔で案内標識を設置することで、安心して歩けるようになる。
- ・ ここでは湯田中駅から地獄谷野猿公苑までの約5kmの間に「目的地名」と「そこまでの距離」を示す案内標識を複数設置し、途中で旅行者が不安を覚えにくいよう配慮されている。

※黄色い色とイラストを統一することで、より安心できるように工夫されている(この色・イラストを見れば道を外れていないことがわかる)。

3. 整備の実践 (1) 連続性を保つ

事例

③ルート途中の一地点での案内

観光目的地まで誘導する



地域	和歌山県（熊野古道）
設置状況	熊野古道 中辺路のルート上 （500mおきに設置）
タイプ	杭型

- ・山岳高原のトレッキングコースのように徒歩で長距離を移動するルートでは、一定間隔で道標を設置することで、旅行者の不安を取り除き、道に迷いにくい環境づくりができる。
- ・熊野古道の中辺路は数十kmに及ぶコースだが、約500mおきに固有番号を付した道標を設置しており、旅行者は現在地や移動ペースを把握できるようになっている。

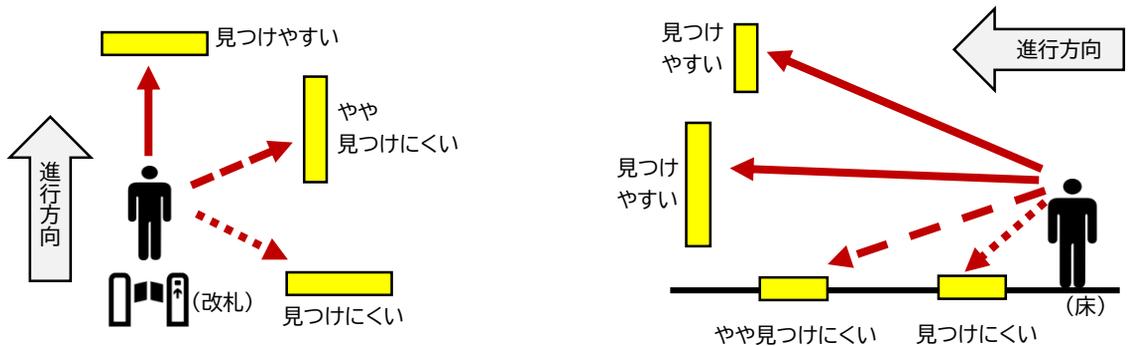
※この道標には緊急連絡先が示されており、事故・怪我などがあつた際には道標番号によって現在地を伝えることができる。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

案内標識は旅行者が容易に見つけられるものとしてデザイン・設置する必要があります。どのようなデザインや設置場所にすれば見つけやすくなるかについては、設置環境によって異なるため、環境に応じて最適なものを考えることが重要です。主なポイントを以下に示します。

①旅行者の視線に合わせた設置

移動ルートの近くに設置すれば見つけやすくなるとは限りません。設置場所は、旅行者が移動するときの視線にあることが求められます。はじめて来た場所の移動中、視線は背後や下方に向きにくく、原則として進行方向の前方や上部の「自然と視界に入る範囲」が設置場所になります。



②見つけやすい大きさ

その案内標識が最初に視界に入る位置から見て、見つけやすい大きさであることが求められます。例えば、駅から出た旅行者の使うバス停標識であれば、駅出口から見つけやすい大きさが求められます（出口からバス停が離れている場合、バス停の方向を示す別の案内標識が必要）。

表示する文字・ピクトグラム等の大きさにも留意が必要です。案内標識が大きくと、情報量が多いと文字が小さくなって目立たなくなるケースもあります。

③見つけやすい色使い

見つけやすくするには、設置する周囲の環境のなかで目立つ色合いにすることが有効です。背景と案内標識本体とが、また案内標識の地の色と文字の色とが、できるだけ対照的な色や濃淡になるなどの工夫が考えられます。例えば派手な看板の多い繁華街では、赤や黄など派手な色使いだとかえって見つけにくいケースがあります。

なお目立たせることは景観の阻害にもつながるため、「見つけやすさ」と「景観への配慮」の間でバランスをとることも求められます（参考：長野県案内標識整備指針 歩行者案内編 p.29）。

④見つけやすい設置場所・表示場所

環境によっては、設置場所・表示場所を目にとまりやすい位置（情報が込み合っていないところ）にすることで、見つけやすさを向上させられる場合もあります。例えば、支柱の上部などに歩行者の動線と対面する方向の表示板を設置することで見つけやすくする方法もあります（参考：長野県案内標識整備指針 歩行者案内編 p.5）。

また交通機関の乗降場所や改札などの混み合う場所では、人や車両がどこを通るかを想定し、視界に入る位置はどこかを考えることも重要になります。

長野県
案内標識整備指針
(歩行者案内編)
での関連パート

- 掲示の高さ (p.4, p.17)
 - ・ 立位の利用者と車椅子使用者双方の視認性を確保するため、地図の中心の高さは125cm程度を標準とする
- 見つけやすさの工夫 (p.5)
 - ・ 地図標識には歩行者の視認性に配慮し、「i」マークを表示する
- 色彩 (p.7)
 - ・ 地色と(中略)文字色のコントラストが重要であり、配色にあたっては、明度差に配慮する
 - ・ 見分けにくい色の組み合わせや、彩度の低い色同士、鮮やかな色同士の組み合わせを避ける
- 文字の大きさ (p.18)
 - ・ 設置場所や掲出高さ等に応じて、視認性を考慮した上で文字及びピクトグラムの大きさを決定する
- 照明等 (p.21)
 - ・ 夜間の利用に耐えるだけの明るさを確保する(中略)方法としては外部光源からの照射、照明装置の組み込み、内照などが考えられる
- 設置 (p.33)
 - ・ 設置にあたっては、想定される歩行者の移動方向、誘導したい方向を考慮する
- 表示板面の方向 (p.34)
 - ・ 表示板面の方向によって、視認性の良い進行方向が異なることに配慮する

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

移動時に自然に目のいく位置への設置



外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.8 分かりやすさ：3.3

地域

長野県松本市

設置状況

JR松本駅ホームから改札のある2階へ上る階段

タイプ

吊り下げ看板

- ・旅行者は移動中に迷ったとき、自然に視線を上げることが多いため、進行方向の上部にある案内標識は見つけやすい。ここでは上り階段なので、さらに見つけやすい位置になっているといえる。
- ・ここでは階段の正面にも青いシートによる案内表示を貼ることで、案内を補足している。

※階段は電車を降りたタイミングでは込み合うために留まりにくい位置になることに注意。

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

移動時に自然に目のいく位置への設置



外国人
モニター評価

見つけやすさ：4.0 分かりやすさ：4.0

地域

長野県松本市

設置状況

JR松本駅の連絡通路から上高地線ホームへ下りる階段

タイプ

壁面シート

- ・ここでは下り階段の出口上部に設置されており、階段を下りる際に自然に目のいく位置にあるといえる。

※ここではさらに、JR線と上高地線という2つの移動先を緑・青の2色で分けて表示することで、分かりやすさも向上させている。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

建物を出た直後の正面に設置



駅出口からみたとき



駅に向かう方向からみたとき

外国人
モニター評価

見つけやすさ：2.8 分かりやすさ：2.5

地域 長野県長野市

設置状況 長野電鉄長野駅への地下通路入口（JR長野駅の善光寺口前）

タイプ 壁面パネル

- ・ 建物や通路から屋外に出るときは視界が一気に広がるため、見つけやすくするには出る直前／出た直後の正面に案内標識を設置することが重要となる。
- ・ 長野電鉄駅への通路入口は、JR長野駅出口から見ると横を向いているが、ここでは側面に大きな案内標識を設置することで、JR長野駅を出た直後に見つけやすくなっている。

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

建物を出た直後の正面に設置



駅出口から正面をみたとき、左右に見える2本の柱

外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.7 分かりやすさ：2.3

地域 長野県白馬村

設置状況 JR白馬駅の出口前

タイプ 壁面（柱面）シート

- ・ JR白馬駅を出た正面はロータリーになっており、徒歩では左右どちらへ行けばいいか分かりにくくなっている。ここでは駅を出た直後に目の前に見える2本の大きな柱を利用し、目にとまりやすい案内を実現している。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

建物を出了直後の正面に設置



地域 長野県長野市

設置状況 JR長野駅東口を出てすぐの踊り場の正面

タイプ 2本足看板

- ・ 駅コンコースからの出口では、視野が急に広がるため、できるだけ目にとまりやすい位置に案内標識を設置することが求められる。
- ・ JR長野駅東口では、出口から見て正面にある2つの看板を利用し、ここから1階に下りたところにあるバス乗り場の情報を伝えている。(2020年に既存看板を改修する予定)

※この例では、設置位置が出口から離れているため、出た直後に必ずしも「見つけやすい」とはいえないが、旅行者が踊り場を歩くときには目に入りやすくなる。

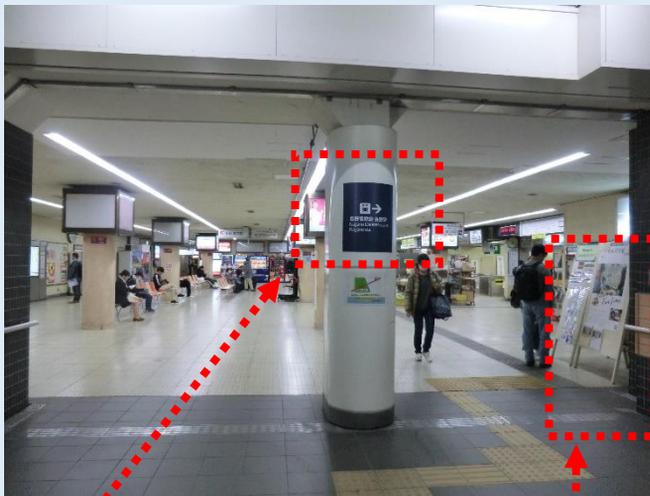


▲改修予定のデザイン

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

通路から出る直前の正面に設置



駅構内へ入るとき正面にあるので見つけやすい

横向きになっているので見つけにくい

地域 長野県長野市

設置状況 地下通路から長野電鉄長野駅の構内に入る直前

タイプ 壁面(柱)シート

- ・ 通路から駅構内など広いスペースに入るときは、急に視野が広くなり売店や広告など様々な情報が飛び込んでくるため、目にとまりやすい位置に案内標識を設置することが重要になる。
- ・ 長野電鉄長野駅では、駅構内へ入るとき視界の正面にある柱を利用した案内を行っている(このとき横向きになっている案内標識は見つけにくいといえる)。

※駅構内に入ってしまおうと、旅行者の視線は正面左右に散らばるため、見つけやすい位置を探すのは難しい。ここでは、視野が広がる直前(通路内にいる段階)で視線の正面に設置していることがポイント。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

進行方向の正面に設置



地域 長野県長野市

設置状況 道路沿いなど

タイプ 2本足看板など

- ・道路・通路と並行に設置する案内標識の場合、進行方向と直交する向きに張り出す部分をつくることで、旅行者の目にとまりやすくなる。
- ・長野市内の案内標識では、旅行者への情報案内を表す「i」マークが道路の進行方向に直交するよう張り出すよう工夫しており、見つけやすくなっている。

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

カウンターのそばに設置



地域 長野県山ノ内町

設置状況 長野電鉄湯田中駅のバスチケット販売カウンター

タイプ 貼り紙

- ・チケット販売カウンターは旅行者の視線がいきやすいため、貼り紙などで案内表示をすれば目にとまりやすい。
- ・長野電鉄湯田中駅では、チケット販売カウンターが様々な情報案内スペースとしても利用されており、バス乗り場の位置などが目立つ位置で示されている。

外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.7 分かりやすさ：3.2

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

①旅行者の視線に合わせた設置

カウンターのそばに設置



外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.2 分かりやすさ：2.7

地域

長野県白馬村

設置状況

白馬八方バスターミナル内の案内カウンター

タイプ

吊り下げ看板

- ・白馬八方バスターミナルでは案内カウンターが広いので、バスについての問合せに対応するスタッフの位置を真上から吊り下げた看板で示している。スタッフのいるカウンターは旅行者の視線がいきやすい位置であり、そのそばに表示すれば見つけやすくなる。

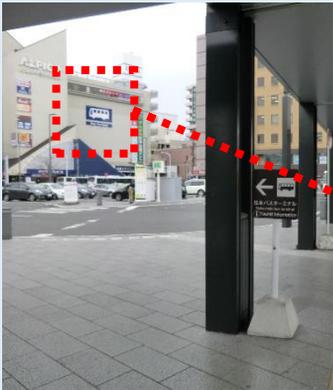
※ここではバスのアイコンに加えて「Information」のように情報案内をしていることを示す表示があればなお分かりやすくなる（バスだけでは単にチケット売場であるとも読みとれるため）。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

②見つけやすい大きさ

建物外壁に大きく表示



JR松本駅から見たとき



外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.5 分かりやすさ：3.8

地域	長野県松本市
設置状況	松本バスターミナルの建物外壁
タイプ	壁面シート

- ・鉄道駅やバスターミナルなど、移動先の建物が十分に大きければ、その外壁に大きく表示することで見つけやすい案内になる場合がある。
- ・松本バスターミナルでは、JR松本駅からの乗り換え客を想定し、駅から見たときに視界に入るバスターミナル外壁に巨大な案内を表示している。
- ・バスのピクトグラムのみを目立たせたシンプルなデザインにすることで、遠方からでも見つけやすくなっている。

事例

②見つけやすい大きさ

建物外壁に大きく表示



松本城(観光目的地)に向かって歩いているとき



地域	長野県松本市
設置状況	市街地にある観光情報センターの外壁(柱)
タイプ	壁面シート

- ・街中では様々な標識や看板が乱立しているため、表示サイズを大きくすることは多くの場面で有効といえる。
- ・松本市の観光情報センターでは、情報案内をしていることを示す「i」マークのみを大きく目立たせており、街中でも見つけやすくなっている。

※JNTOの認定する全国共通の観光案内所ロゴデザインを使用していることや、観光目的地(ここでは松本城)へ歩く旅行者にとって正面の柱を利用していることも、見つけやすさの向上に寄与しているといえる。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

②見つけやすい大きさ

大きな表示から小さな表示への誘導



旅行者の視線

外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.2 分かりやすさ：2.7

※大きなピクトグラムの下にある2本足看板(時刻用)の評価

地域	長野県長野市
設置状況	JR長野駅東口バス乗り場
タイプ	壁面シート、2本足看板

- ・バス乗り場の時刻表のように細かい案内はどうしても文字が小さくなるが、その場合はピクトグラムなど大きな表示によって視線を誘導することも有効である。
- ・JR長野駅東口のバス乗り場では、壁面の大きなピクトグラムを活用して視線を誘導し、その下にある時刻表に目が行きやすいよう配慮している。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

③見つけやすい色使い

背景とのコントラスト（対比）をつける



外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.3 分かりやすさ：3.8

地域

長野県松本市

設置状況

JR松本駅改札から中に入った直後、正面の売店前の床上

タイプ

床上シート

- ・ 床上サインは一般に目にとまりにくいため、特にコントラスト（対比）によって目立たせることが重要となる。
- ・ JR松本駅では、床の薄いグレーに対比させ、サインを濃いグリーンで目立たせてあり、見つけやすくなっている。



▲同じ改札付近の床上サインでも、床の色との対比が弱いと目にとまりにくくなる。上記の評価は「見つけやすさ：1.2 分かりやすさ：1.2」となっている。

事例

③見つけやすい色使い

背景とのコントラスト（対比）をつける



資料提供：株式会社アムス

地域

千葉県神崎町

設置状況

道の駅（発酵の里こうざき）敷地内

タイプ

自立看板

- ・ 案内標識を設置する際、周辺の建物や道の色との対比を考えることも重要となる。目立たせることだけを考えるのではなく、設置場所の景観になじむ（悪目立ちしない）色を選ぶことが求められる。
- ・ この例では、背景との対比が強かつ景観になじむ色として、和紙をイメージしたデザイン・色合いを採用。見つけやすく、景観を大きく阻害することもない案内標識となっている。

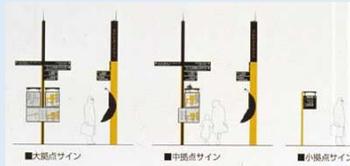
※道の駅敷地内の案内標識を同じ色で統一することで、より「景観との調和」と「見つけやすさ」の両立を図っている。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

③見つけやすい色使い

シンボリックカラーの設定



出典：さいたま新都心サイン計画

地域	埼玉県さいたま市
設置状況	さいたま新都心エリア一体
タイプ	自立看板

- ・再開発された「さいたま新都心」エリアでは、案内標識も統一的に整備されている。ここでは都市的な景観のなかで見つけやすく、かつ空間のアクセントになるという思想から、黄色を同エリアのシンボリックカラーと設定している。個々の案内標識の色だけでなく、エリア内の案内標識の色を統一することで、見つけやすい環境をつくることができる。

※なお、シンボリックカラーは多様・多色化すると視覚的にうるさくなる懸念もあるため、使い方には注意が必要。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

④見つけやすい設置場所・表示場所

情報の多い場所で見つけやすくする工夫



外国人
モニター評価

見つけやすさ：4.0 分かりやすさ：3.8

地域	長野県松本市
設置状況	松本バスターミナル外壁
タイプ	外壁シート

- ・ 標識・広告などで多様な色彩が溢れる街中では、建物全体を単色でカラーリングすることで見つけやすさを向上できる ケースがある。
- ・ 松本バスターミナルの場合、濃いブルーが背景とも対比され目にとまりやすい。
- ・ ここではJR松本駅方面から歩いてくる旅行者を想定し、移動中に目に入る壁面に大きく建物名を表示していることも見つけやすさ向上につながっている。

事例

④見つけやすい設置場所・表示場所

情報の多い場所で見つけやすくする工夫



地域	長野県白馬村
設置状況	白馬八方バスターミナル外壁（柱）
タイプ	外壁（柱）シート

- ・ 大きな交通拠点など様々な案内標識が乱立する場所では、建物の壁面や柱をカラーリングして案内に利用することで、看板の乱立を抑えながら目にとまりやすい案内ができる ケースがある。
- ・ 白馬八方バスターミナルでは、バス乗り場案内のために柱を利用しており、バス停看板の乱立を抑えつつ、乗り場の見つけやすい環境づくりを図っている。

3. 整備の実践 (2) 見つけやすく

事例

④見つけやすい設置場所・表示場所

情報の少ないところへの設置



資料提供：株式会社コトブキ

地域	長野県上田市
設置状況	市中心部 国道141号線沿い歩道（上田城址公園近く）
タイプ	屋根付き自立看板

- ・ 標識や広告が込み合った位置に比べて、そうしたものがなく 目に入る情報量が少ない位置にある案内標識は見つけやすくなる。街歩きの総合案内のように、比較的位置を柔軟に選べる案内標識の場合は考慮すべきといえる。

※ここでは目つけやすい位置に設置することに加えて、案内標識のデザインを和風建築風にすることで、より旅行者の目にとまりやすくしている。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

案内標識は誰にとっても分かりやすい表記が求められます。このためには、どこで・誰に・何を伝えるかを踏まえ、最適な表記方法をとることが重要です。主なポイントを以下に示します。

①伝えるべき内容の明確化・絞り込み

情報はシンプルなほど分かりやすいため、案内標識の目的を踏まえて伝えるべき内容を明確化し、その情報に絞り込むことは、分かりやすい案内標識をつくる上で非常に重要です。

案内標識の主な目的	伝えるべき内容
記名	その場所・施設の名称
誘導	目的地までの方向と距離
解説	観光資源などの詳細情報の解説（多言語化も要検討）
禁止・規制	禁止事項、守るべきルールやマナー

②デザインや表記の統一

鉄道駅やバスターミナル、温泉街など、案内標識や看板・広告等が多い場所では、異なるデザインや表記方法の案内標識が乱立すると旅行者にとって分かりにくくなります。デザインや色、表記方法などを統一することで、旅行者の目にとまりやすく、案内の意図を伝えやすくなります。

③図・ピクトグラムの活用

文字量を減らし、直感的に分かりやすい案内標識にするにあたり、図やピクトグラムの活用は基本的な工夫といえます。写真やイラストの組み合わせなど、柔軟なやり方が考えられます。

④移動ルート全体像の案内

乗り換えまでの移動ルートが複雑な交通拠点などでは、誘導標識だけでなく、移動の起点で移動ルートの全体像を案内しておくことも効果的です。

⑤地図による案内

街歩きを楽しむ観光地では地図の設置も必要です。旅行者にとって重要な見どころ、観光案内所、コンビニ（ATM）などの情報を、煩雑にならないよう記載することがポイントになります。

⑥目的地ベースでの案内

旅行者が目指しているのは観光目的地であり、案内標識の記載ではまず観光目的地の名称を大きく示すことが重要です。その上で、そこへ行くための出口や乗り場等を案内します。

⑦適切な移動ルートを選びやすい配慮

様々な行き先がある鉄道駅やバス乗り場では、目的地と乗り場を番号や色などでつなげ、行き先ごとの正しいルートを選びやすいよう配慮することが求められます。

⑧ICT機器の活用

伝えるべき情報量が多い場合、デジタルサイネージやQRコードなどのICT機器を活用できます。

⑨緊急時のための情報案内

案内標識には、緊急時のための適切な情報案内が求められるケースもあります。その場合、日本語の読めない外国人旅行者にも伝わるよう配慮する必要があります。

長野県
案内標識整備指針
(歩行者案内編)
での関連パート

※推奨されるピクトグラムについては、共通表記編 p.21以降を参照

- 指針の対象範囲 (p.1)
(案内標識の分類/地図標識、誘導標識、説明標識、規制標識)
- 地図の表示範囲、縮尺 (p.9)
 - ・ 表示範囲、縮尺、表現手法等を適切に選択する
 - ・ 情報量が多い場合は範囲をしぼりこみ(中略)煩雑にならないよう表示
- 情報を補完するICTの活用 (p.21)
- 統一性を持たせる (p.27)
 - ・ デザインの共通化により、連続した情報として利用者に認識させることができる
- 情報同士の関係を整理する (p.28)
 - ・ 重要度の高い情報の強調(中略)など、煩雑さを避けながら豊富な内容を表示する工夫が必要

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

①伝えるべき内容の明確化・絞り込み

「記名タイプ」としての案内



外国人
モニター評価

見つけやすさ：4.0 分かりやすさ：3.8

地域 長野県松本市

設置状況 松本バスターミナル

タイプ 壁面シート

- ・場所や施設の名称を示す「記名タイプ」の案内標識は、シンプルなものが最も分かりやすくなる。
- ・バスターミナルの場合など、名称よりピクトグラムを目立たせることで、必要な情報を端的に伝えられるケースもある。



観光案内所の表示であれば、同様に「i」マークだけをシンプルに表示すれば分かりやすい。

事例

①伝えるべき内容の明確化・絞り込み

「誘導タイプ」としての案内



地域 長野県松本市

設置状況 松本市街地 JR松本駅前周辺

タイプ 矢羽根看板

- ・旅行者を誘導する「誘導タイプ」の案内標識では、「方向」と「距離」を伝えることが最も重要となる。移動先がバス停など交通拠点の場合はそこから先にある「観光目的地」を、移動距離が長い場合は「徒歩の所要時間」を、それぞれ加えた方がより分かりやすくなる。
- ・松本市街地では、方向・距離・目的地名（多言語）・ピクトグラムの4つに情報を絞っている。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

①伝えるべき内容の明確化・絞り込み

「解説タイプ」としての案内



地域

熊本県熊本市

設置状況

熊本城およびその周辺エリア

タイプ

移動キャスター付き看板

- ・観光コンテンツの魅力を伝える「解説タイプ」の案内標識は、見ただけでは価値を理解しにくい場合などで特に重要となる。内容をできるだけ多言語化し、対象ごとにアレンジすること（外国人旅行者向けには専門用語をかみ砕いて伝えるなど）がポイントとなる。
- ・地震の被害を受けた熊本城のケースでは、被災後に国内外の観光客向けに被災前の姿や工事の説明を行う多言語解説板を24ヶ所に設置し、その価値を伝えられるようにしている。

事例

①伝えるべき内容の明確化・絞り込み

「禁止・規制タイプ」としての案内



地域

京都府京都市

設置状況

祇園町エリア

タイプ

一本足看板

- ・ルールやマナーを守るよう伝える「禁止・規制タイプ」の案内標識では、ピクトグラムや×印などのビジュアルを使ってひと目で分かるようにすることが求められる。外国人旅行者は日本のルールやマナーに詳しくないことも多いため、インバウンドの先進地域で受入側の負担を軽減するには重要なものといえる。
- ・京都の祇園町では、舞妓への迷惑行為などが問題になっていたため、旅行者に伝えるべきマナーを看板として、舞妓の歩く通りを中心に設置している。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

①伝えるべき内容の明確化・絞り込み

特定の内容に特化



地域	長野県長野市
設置状況	JR長野駅コンコース内
タイプ	貼り紙（ポスター）

- ・交通拠点では、旅行者からの「よくある質問」への答えをあらかじめ貼り紙等で案内しておくことで、現場の負担軽減が見込める。
- ・JR長野駅では、外国人旅行者を対象に、その主要な観光目的地（地獄谷野猿公苑や白馬など）へ向かう交通機関への乗り換えルートを案内する貼り紙を複数掲示している。

事例

①伝えるべき内容の明確化・絞り込み

特定の内容に特化



JR長野駅東口売店の玄関口



地域	長野県長野市
設置状況	JR長野駅東口売店（店内で白馬行きバスチケットを販売）
タイプ	A型看板、壁面（窓）シート

- ・多くの旅行者が困っていることがあれば、そのことについての案内を貼り紙等で補うことが重要である。
- ・JR長野駅東口の売店（お土産屋）では、白馬行きバスチケットを販売していることが外国人旅行者に分かりにくいいため、玄関口に大きく「HAKUBA」「Bus Ticket」と表示している。

※なお地名を表記する際、中国語圏の旅行者はローマ字では理解できない（漢字の発音と異なる）ため、ローマ字・漢字の併記が理想的である。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

②デザインや表記の統一

色の統一



地域	長野県長野市
設置状況	JR長野駅
タイプ	壁面パネルなど

- ・ 交通拠点のように数多くの案内標識で移動ルートを案内する必要がある場所では、色を統一することで旅行者の目にとまりやすく、案内の意図を伝えやすくなる。
- ・ JR長野駅周辺では、設置する案内標識の基本カラーをブルーに統一することで、分かりやすさを向上させている。

事例

②デザインや表記の統一

色の統一



JR松本駅構内の色の使い分け（JR線：グリーン、上高地線：ブルー）

地域	長野県松本市
設置状況	JR松本駅
タイプ	壁面パネルなど

- ・ 複数の案内標識の色使いを統一する際、移動ルートごとに色を使い分けすることで、より分かりやすい案内が可能になる。
- ・ JR松本駅にはJR線と上高地線が乗り入れているが、JR線をグリーン、上高地線をブルーで統一しているため、上高地線へ乗り換えるときに切符売場や乗車ホームを見つけやすくなっている。

上高地線の乗車ホーム



3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

②デザインや表記の統一

デザインの統一



外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.3 分かりやすさ：2.5

地域 長野県白馬村

設置状況 白馬八方エリアの街中（スキー客が滞在するエリア）

タイプ プレート

- ・スキー客の滞在するエリアや温泉街など細かい道の多いところでは、案内標識も数多く設置されるケースがある。このとき整備した時期や主体によって異なるデザインの案内標識が乱立すると旅行者にとって分かりにくくなるため、統一したデザインで整備することが望ましい。
- ・白馬八方エリアではゲレンデやバスターミナルなどを案内する街中の案内標識が統一したデザインで複数設置されている。

事例

②デザインや表記の統一

デザインの統一



地域 長野県野沢温泉村

設置状況 野沢温泉エリアの街中

タイプ 杭型、街灯や電信柱を利用したパネルなど

- ・野沢温泉エリアでは案内標識の設置方法は様々だが、色・文字フォント・矢印・ピクトグラムなど基本的な表示デザインを統一しているため、旅行者が街中を歩くときに分かりやすくなっている。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

③ 図・ピクトグラムの活用

認知されているものを使う



▲JNTO認定外国人観光案内所のシンボルマーク



地域

長野県松本市

設置状況

JR松本駅、街中の観光案内所、松本バスターミナル

タイプ

壁面パネルなど

- ・ ピクトグラムやマークは、国内外を含めてできるだけ多くの旅行者に認知されているものを使うことが望ましい。
- ・ 松本市街地では、駅・バスターミナル・街中にある観光案内所はすべてJNTOの共通マークを使っているため分かりやすい。



▲観光案内所に「？」マークを使うこともあるが、国際的には「information (情報案内)」を示す「i」マークの方が認知されているといえる。

事例

③ 図・ピクトグラムの活用

認知されているものを使う



地域

長野県白馬村、長野市、松本市

設置状況

JR白馬駅、JR長野駅、松本バスターミナル

タイプ

壁面シートなど

- ・ 電車との区別のしやすさから、バスのピクトグラムは横向きのものが分かりやすく、旅行者からも認知されているとみられる。多くの観光地ではこのタイプが使われている。



▲バスを正面から見たピクトグラムの例。同じ地域に複数のタイプのピクトグラムが混じっていると分かりにくくなる。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

③ 図・ピクトグラムの活用

複数のピクトグラムを使う



外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.3 分かりやすさ：4.0

地域

長野県松本市

設置状況

松本バスターミナル入口の床

タイプ

床シート

- ・図やピクトグラムを複数使うことで、より踏み込んだ情報を伝えることができる。
- ・松本バスターミナルでは、バスに加えてチケット販売のピクトグラムを示すことで、バスターミナル内のどこにチケット販売所があるかを分かりやすく示している。

事例

③ 図・ピクトグラムの活用

複数のピクトグラムを使う



外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.7 分かりやすさ：3.7

地域

長野県白馬村

設置状況

JR白馬駅 駅前周辺

タイプ

壁面（柱）シート

- ・JR白馬駅では、バス乗り場、コインロッカー、喫煙所、トイレなどの誘導先をすべて文字よりもピクトグラムのサイズを大きく表示しており、どのような言語圏の旅行者でも直感的に分かるよう配慮している。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

③ 図・ピクトグラムの活用

写真を併用する



▲地獄谷野猿公苑を表す「スノーモンキー」の写真(上: JR長野駅、下: 長野電鉄湯田中駅)



▲立山黒部アルペンルートを表す「黒部ダム」「雪の大谷」の写真(JR信濃大町駅)

地域 長野県山ノ内町

設置状況 長野電鉄湯田中駅

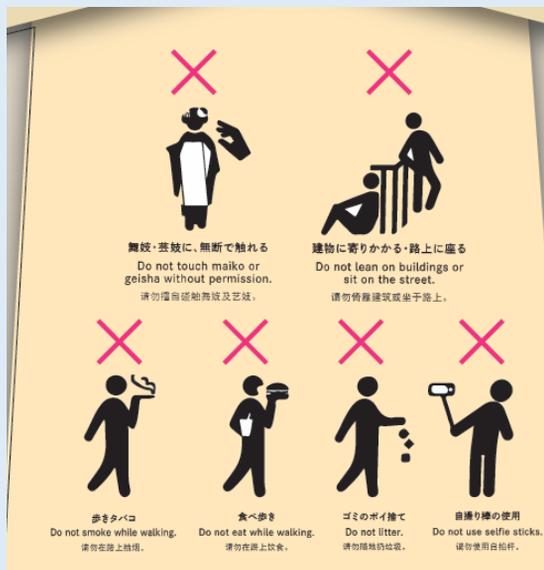
タイプ 壁面シート

- ・ピクトグラムに加えて、写真を活用することでより分かりやすい案内ができることがある。
- ・地獄谷野猿公苑や立山黒部アルペンルートは、旅行者にとって観光地の明確なイメージがあるため、その写真を使うことで観光目的地を分かりやすく伝えることができる。

事例

③ 図・ピクトグラムの活用

独自の図・ピクトグラムを作る



資料提供: 祇園町南側地区協議会

地域 京都府京都市

設置状況 祇園町

タイプ 一本足看板

- ・その地域特有のマナーやルールを伝えるといった場面では、独自に図・ピクトグラムを作ることも有効である。特に外国人旅行者の多い地域では、こうした工夫により言語に頼らず伝えることが期待できる。
- ・京都市祇園町では、旅行者の迷惑行為が問題になっていたため、言語によらず直感的に分かるよう独自の図を作成し、マナー遵守のための案内標識として設置している。このことで外国人を含む旅行者とのトラブル抑制に努めている。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

④移動ルート全体像の案内

交通拠点での移動ルート全体像の案内



▲JR長野駅で外国人旅行者向けに配布しているチラシ



地域 長野県長野市

設置状況 JR長野駅構内

タイプ チラシ

- ・大きな鉄道駅のように、旅行者の移動ルートが複雑になる交通拠点では、起点で移動ルートの全体像を案内すると分かりやすくなる。
- ・JR長野駅では、駅到着後に地獄谷野猿公園を目指す場合の切符購入や乗り換えに必要な移動ルートについて、その全体像をマップ化し、チラシで案内している。

事例

④移動ルート全体像の案内

交通拠点での移動ルート全体像の案内



◀JR信濃大町駅 駅前ロータリーに設置された案内標識



地域 長野県大町市

設置状況 JR信濃大町駅 駅前ロータリー

タイプ 自立看板

- ・JR信濃大町駅では、ここを起点に立山黒部アルペンルートへ向かう旅行者にとって重要な「荷物預り所」「バスチケット売場」「バス乗り場」といった場所がどこにあるかについて、駅前マップ上で示している。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

④ 移動ルート全体像の案内

観光エリアでの移動ルート全体像の案内



JR信濃大町駅構内、改札を出た正面に設置される案内標識

地域	長野県大町市
設置状況	JR信濃大町駅構内
タイプ	移動キャスター付き看板

- 立山黒部アルペンルートは富山県から長野県にかけて広がる観光エリアとなっている。移動の起点となるJR信濃大町駅構内では、観光エリア全体の移動ルートを交通手段や所要時間等と共に示す案内標識を設置しており、旅行者が広大な観光エリアの全体像をつかみやすいようにしている。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑤地図による案内

街中の全体地図を示す



地域 長野県松本市

設置状況 松本市街地

タイプ 自立看板

- ・市街地観光(まち歩き)の楽しめる観光地では、街中の各所に地図の案内標識を設置することで移動ストレスを軽減できる。
- ・松本市街地では、街中マップを各所に設置しているため、旅行者にとって迷わず歩きやすい環境になっている。

※旅行者を想定すると、観光スポットやコンビニ、ランドマークになる建物等を目立たせるとより分かりやすくなる。また、主だったスポットは日英併記しておく、かな文字の地名は中国語圏にとって理解しにくい漢字が英名を使う、といった配慮もあればなおよい。

事例

⑤地図による案内

街中の全体地図を示す



地域 長野県野沢温泉村

設置状況 野沢温泉観光案内所前

タイプ 自立看板

- ・街歩きの全体像は、その起点で案内するのが理想である。
- ・野沢温泉では、旅行者が到着する主要な交通手段である「野沢温泉ライナー」バスを降りた向かいに大きな自立看板を設置しており、ここで温泉街の全体像を地図で案内している。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑤地図による案内

特定エリアの詳細地図を示す



▲中町通りにある壁面に設置された通りの地図



▲中町通りで配布されているパンフレットの地図

地域	長野県松本市
設置状況	松本市街地 中町通り
タイプ	壁面シート、パンフレット

- ・ 旅行者の多いエリアでは、飲食店や土産物店の場所、コンビニや観光案内所、交通拠点などの旅行者向け情報を網羅した詳細地図を案内することも効果的である。
- ・ 松本市街地の観光スポット「中町通り」では、通りにある店舗を網羅した地図を作成し、店舗のカテゴリを色別で表記するなど旅行者に分かりやすいよう工夫している。
- ・ 地図は、通りの壁面に表示すると共に、パンフレットや観光Webサイトにも掲載している。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑥目的地ベースでの案内

観光目的地ごとの移動先がわかるように示す



地域

長野県長野市

設置状況

JR長野駅構内 観光案内所前

タイプ

スタンド+垂れ幕

- ・旅行者が目指しているのは観光目的地であり、その途中に通過する乗り換え場所や出口ではない。案内ではまず観光目的地を目立たせ、そこへ行くためにどの乗り換え場所や出口へ向かえばよいかを示すことが重要である。
- ・長野市の観光地としては善光寺、松代、戸隠の3つが著名であるため、観光案内所ではまずこの3つの観光目的地を目立たせ、そこへ行くにはどの乗り場へ向かえばよいかを案内している。

事例

⑥目的地ベースでの案内

観光目的地ごとの移動先がわかるように示す



地域

長野県長野市

設置状況

JR長野駅東口 ユメリアパークバス乗り場付近

タイプ

横断幕

- ・JR長野駅東口では様々な地域へのバスが発着しているが、ここでは外国人旅行者に人気の観光目的地である「志賀高原」「野沢温泉」「白馬」の3つに絞り、そこへいくために向かうべきバス乗り場の番号を案内している。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑦適切な移動ルートを選びやすい配慮

バス乗り場の総合案内



乗り場にある案内標識

外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.5 分かりやすさ：3.5

地域

長野県長野市

設置状況

JR長野駅東口バス乗り場

タイプ

プレート、吊り下げ看板

- 多くの行き先があるバス乗り場は旅行者が迷いやすい場所のひとつで、目的地と乗り場を番号でつなげる方法が効果的である。
- JR長野駅東口バス乗り場では、主要な観光目的地へ行く乗り場の番号を別途大きな案内標識で示しているため、乗り場を探しやすくなっている。

事例

⑦適切な移動ルートを選びやすい配慮

バス乗り場の総合案内



乗り場にある案内標識

地域

長野県長野市

設置状況

JR長野駅善光寺口のロータリー

タイプ

自立看板

- JR長野駅善光寺口では、観光だけでなく多くの生活路線のバスが発着しているため旅行者は迷いやすい。ここでは目的地別の乗り場番号の案内標識を設置すると共に、乗り場ではそこから行ける観光目的地をイラスト等で表示している。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑦適切な移動ルートを選びやすい配慮

カラーリングによる乗り場案内



地域	長野県松本市
設置状況	上高地線 新島々駅の改札～バス乗り場
タイプ	吊り下げ看板、床上シートなど

- ・観光目的地ごとのカラーリングによって、複数の乗り場へ分かりやすく誘導することができる。
- ・上高地線新島々駅では、上高地、乗鞍高原、白骨温泉、平湯温泉・高山市街地と観光目的地ごとに乗り換えるバスが異なるため、出口の案内やチケット売り場で目的地ごとのカラーリングを行い、バス乗り場までの路面をそれぞれの色で誘導している。

事例

⑦適切な移動ルートを選びやすい配慮

ナンバリングによるバス停案内



地域	長野県駒ヶ根市、宮田村
設置状況	伊那バス「駒ヶ岳ロープウェイ線」沿線
タイプ	バス停標識その他

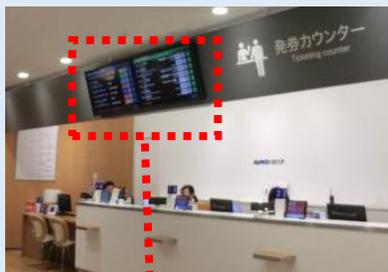
- ・外国人旅行者にとって、鉄道駅やバス停の名称を正しく読み取るのは難しいことが多い。そこで近年では、個々の駅・バス停にアルファベットを組み合わせたナンバリングを行って利用しやすくする例が増えている。
- ・駒ヶ根駅から駒ヶ根ロープウェイまでをつなぐバス路線では、路線図や各バス停標識に共通のナンバリングを示し、外国人旅行者でも利用しやすいようにしている。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑧ ICT機器の活用

バス乗り場のデジタルサイネージ



▲各バス乗り場での表示

時刻	路線	目的地	バス種別	備考
16:10	京師バスご案内	横田～横田大学～船本	横田線	
16:15	信濃バス	信濃少部線	信濃少部線	
16:20	信州大学	横田～船本	横田線	
16:25	信州大学	横田～船本	横田線	
16:30	信州大学	横田～船本	横田線	
16:30	信州大学	横田～船本	横田線	

▲バス案内カウンターでの表示

外国人
モニター評価
見つけやすさ：4.0 分かりやすさ：4.0

地域

長野県松本市

設置状況

松本バスターミナル

タイプ

デジタルサイネージ

- ・鉄道やバスなど、観光で使われている路線が多く乗り入れている交通拠点では、発着時刻や乗り場をデジタルサイネージによって案内することで分かりやすくなる。
- ・松本バスターミナルではデジタルサイネージによって、直近の便の行先・発着時刻・乗り場を表示する（一定時間で各言語の表示に切り替わる）ようになっており、各乗り場でも直近の便が表示される。

事例

⑧ ICT機器の活用

バス乗り場のデジタルサイネージ



▲バス乗り場の案内標識

◀直近の発着便を表示するデジタルサイネージ

地域

長野県飯山市

設置状況

JR飯山駅

タイプ

デジタルサイネージ

- ・JR飯山駅の構内ではデジタルサイネージによって、駅前のロータリーから発着するバスの直近の便の行先・発着時刻・乗り場を表示している。
- ・乗り場を案内するにあたっては、別途案内標識を設置し、ロータリーの地図と乗り場番号を案内標識で示している。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑧ ICT 機器の活用

観光情報のデジタルサイネージ



外国人
モニター評価

見つけやすさ：3.0 分かりやすさ：3.8

地域

長野県松本市

設置状況

JR松本駅の改札を出て正面・左奥の壁面に設置された端末

タイプ

デジタルサイネージ

- ・観光地における観光・交通・食事・宿泊・お土産といった各種情報は、デジタルサイネージを使うことで直接旅行者に伝えることができる。こうした情報を伝えるにはWebサイトが適しているが、デジタルサイネージを使うことでスマートフォンを持たない旅行者（年配の旅行者など）にも詳細な情報案内ができるというメリットがある。
- ・JR松本駅では、構内にこうした観光情報発信のためのデジタルサイネージを設置し、多言語で各種観光情報を伝えている。

事例

⑧ ICT 機器の活用

タブレット端末の活用



地域

長野県白馬村

設置状況

エコランド白馬ベースキャンプ（スキー客向けバス乗り場）

タイプ

タブレット端末

- ・高額デジタルサイネージを使わなくとも、タブレット端末を使って複雑多岐にわたる情報を分かりやすく伝えることができる。
- ・エコランド白馬ベースキャンプでは、タブレット端末を活用し、村に滞在するスキー客向けに各種シャトルバスや高速バス、着地型ツアー、装備レンタルサービスといった情報を分かりやすく提供している。旅行者は端末を操作し、必要な情報を検索することができる。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑧ ICT機器の活用

QRコードによる情報提供



資料提供：東京都、株式会社PIJIN

地域	東京都新宿区
設置状況	東京都庁45階展望室
タイプ	壁面パネル／QRコードによる案内

- ・案内すべき情報量が多い場合、QRコードを通じて携帯端末に情報を表示させることで効率的に伝えることができる。
- ・東京都庁45階の展望室では、展望スペースにQRコードを表示しており、これをスマートフォンで読み取ることで眺望ガイド「Tokyo Sky Guide」による解説を読むことができる。
- ・このサービスは端末の言語設定に応じて15言語で案内できる機能を備えている。案内標識やパンフレットを多言語化すると煩雑になるが、これをスマートに案内できるのもICT活用のメリットである。

事例

⑧ ICT機器の活用

QRコードによる情報提供



資料提供：新潟市、株式会社PIJIN

地域	新潟県新潟市
設置状況	道の駅 新潟ふるさと村
タイプ	壁面パネル／QRコードによる案内

- ・博物館などの展示物の詳細な解説は、QRコードを利用して伝えることで、通訳ガイドや音声ガイド機器と同様の案内ができる。
- ・新潟市の道の駅「新潟ふるさと村」では展示スペースごとに個別のQRコードをつくり各案内標識に掲載している。これをスマートフォンで読み取ることで、個々の展示内容のより詳細な解説を各言語で読むことができる。

3. 整備の実践 (3) 分かりやすく

事例

⑨緊急時のための情報案内

緊急時の避難場所を伝える



▲長野市街地の街中案内地図



▲京都市街地の街中案内地図

地域 (市街地など)

設置状況 (市街地各所)

タイプ 二本足看板など

- ・案内標識には、**緊急時のための適切な情報案内が求められる**ケースもある。
- ・街中の案内地図等では、**緊急時の避難場所についてピクトグラムや多言語の説明によって示しておく**と、外国人旅行者にとっても緊急時の助けになる。

事例

⑨緊急時のための情報案内

緊急時の対応や連絡先を伝える



◀浅間山の登山道（賽の河原分岐）における案内標識。噴火の危険性やこの先は注意を要するエリアになることを伝えている。

▶熊野古道に一定間隔で設置された道標。緊急時の連絡先を示してある（道標の番号を伝えることで現在地を伝えることができる）。



地域 (登山道・散策路など)

設置状況 (道の起点に設置、ルート上に一定間隔で設置など)

タイプ 二本足看板、杭型など

- ・登山道や人通りの限られた自然散策路などでは、事故や怪我などを防止するための注意や警告に加えて、**緊急時にとるべき対応や連絡先を伝える**ことで案内標識としてより機能的なものにできる。

・スリップ注意



・落石注意



・歩道から外れない



▲事故や怪我などを防止するための注意・警告の案内標識のデザイン例（出典：「富士山における標識類総合ガイドライン」）

4. 整備にあたっての留意点

案内標識としての機能を考えると、「連続性」「視認性」「分かりやすさ」の3つの要件を満たすことが最も重要ですが、案内標識の整備にあたってはこれ以外にも留意しておくべき点があります。

①景観への配慮

旅行者のための案内標識が求められる場所は、街並みや旧所名跡、自然公園など、その場所の景観そのものに観光コンテンツとしての価値があることが多くあります。またそうでなくとも、案内標識の整備によってもともとあった景観が阻害されることは避けるべきです。

このため、例えば東京都「国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針」では「景観への配慮」という事項が定められており、「長野県案内標識整備指針」でも「周辺環境との調和（歩行者案内編 p.29）」「乱立による景観阻害への配慮（歩行者案内編 p.31）」といった考え方や、「建物群による街並み、道路などの公共空間などの地域の景観特性を、スケールや構成、素材・色などに反映させ、街並みや周辺環境との調和を図る」「関係者との調整による情報の統合などにより案内標識の増加を極力招かない」といった具体的な留意点を示しています。

②ユニバーサルデザイン、バリアフリー対応

「ユニバーサルデザイン」とは、年齢や障害の有無、体格、性別、国籍などにかかわらずできるだけ多くの人にわかりやすく利用しやすいデザインのことです。「バリアフリー」とは、多様な人が社会に参加する上での障壁（バリア）をなくすことです。

近年は外国人旅行者の増加や、ユニバーサル・ツーリズム（年齢や障害の有無等にかかわらずすべての人が楽しめるよう創られた旅行）など旅行スタイルの多様化が進んでおり、案内標識の整備においてもユニバーサルデザインやバリアフリー対応の観点をもち、できるだけ多様な旅行者を想定した設計・設置が求められています。

③広域観光の視点をもつ

旅行者の移動範囲は、案内標識の設置主体の管轄範囲とは関係なく広がっており、特に外国人旅行者は日本国内を広域で移動しながら様々な観光地を訪れています。このため観光地における案内標識の整備においては、設置主体の管轄範囲や自治体の境界を越えて、より広域の視点をもった情報案内を考えることが重要です。

長野県
案内標識整備指針
(歩行者案内編)
での関連パート

■周辺景観との調和 (p.29～32)

- ・案内標識は街の中に繰り返し用いられる景観要素であるとの考え方から、周辺景観に配慮したものであることが求められている
- ・建物群による街並み、道路などの公共空間などの地域の景観特性を、スケールや構成、素材・色などに反映させ、街並みや周辺環境との調和を図る
- ・街の個性や魅力となる文化的資産（中略）を情報内容に反映させ、街のイメージを強調し豊かにする
- ・標識の乱立による景観阻害を防ぐため、複数の標識の関係を整理し、（中略）関係者との調整による情報の統合などにより案内標識の増加を極力招かないよう検討する

■統一性を持たせる (p.27)

- ・表示デザインを統一する範囲は市町村レベル、広域レベルなど、ある程度の広がりを持っている方が効果的である

4. 整備にあたっての留意点

事例

①景観への配慮

街並みに馴染むデザイン



地域

長野県野沢温泉村

設置状況

温泉街一帯

タイプ

パネル、矢羽根看板、杭型など

- ・温泉街のように街歩きを楽しむ観光地で設置する案内標識は、「見つけやすい」ものであると共に、街並みの景観に馴染むデザインになるよう配慮する必要がある。
- ・野沢温泉では、木製の建物が多い街並みの景観に合うように、ブラウンを基調とした落ち着いたデザインの案内標識を整備している。

事例

①景観への配慮

街並みに馴染むデザイン



▲寺院など観光目的地前に設置された案内標識

◀街中の地図を記載した街歩きの総合案内のための看板

地域

神奈川県鎌倉市

設置状況

市街地各所（寺院前など）

タイプ

屋根付き自立看板

- ・歴史的建築物が観光コンテンツとなっている場所では、案内標識のデザインもそうした建築物に馴染むようデザインすることで、観光地としての魅力向上につなげることが期待できる。
- ・鎌倉市では、寺院などを見て回る観光客向けの案内標識を、木製で日本の伝統建築風のデザインで整備しており、景観を阻害せず、案内標識自体も街並みに馴染むよう配慮している。

4. 整備にあたっての留意点

事例

① 景観への配慮

自然環境に馴染むデザイン



地域	和歌山県
設置状況	熊野古道エリア
タイプ	二本足看板、矢羽根看板、杭型など

- ・ 自然公園など自然環境を楽しむ観光地で設置する案内標識は、山林・高原といった自然景観や広い空の眺望といった背景に馴染むような素材・デザインとすることで、景観に配慮した整備ができる。
- ・ 世界遺産にも指定されている熊野古道では、和歌山県の主導のもと、木材を使った自然景観に馴染む案内標識をエリア共通のデザインとして整備している。

※木材は他の素材に比べ耐久性に劣ったり、メンテナンスコストがかかったりする傾向があるため、素材については総合的に判断する必要がある。

事例

① 景観への配慮

地域の特徴に合わせた独自デザイン



▲水辺空間を活かした都市計画を水色と河川で表現した愛知県「乙川リバーフロント地区」の案内標識（資料提供：株式会社コトブキ）



▲舟運を利用した木材集散地で捕鯨文化も残るとい特徴を木と波型で表現した和歌山新宮市の案内標識（資料提供：和歌山県）



◀伝統的建造物保存地区の街並みに馴染むよう木格子を使った和風デザインの案内標識（資料提供：株式会社コトブキ／設置デザイン例より）

地域	（各所）
設置状況	（各所の特徴に応じる）
タイプ	（各所の特徴に応じる）

- ・ 案内標識を整備する地域の特徴に合わせた独自デザインの案内標識をつくることで、景観に配慮すると共に、地域の魅力を高めることも目指すという手法もある。

4. 整備にあたっての留意点

事例

①景観への配慮

複数の案内標識の複合化による整理



▲複合化前の状況

▲統一デザインのものとして複数の案内標識を一本化

地域

長野県小谷村

設置状況

天狗原の遊歩道

タイプ

杭型

- ・複数の案内標識が乱立する場所では、案内する情報を複合化しひとつにまとめることで、景観への影響を抑えることができる。
- ・ここでは中部山岳国立公園の登山道標識統一デザインに基づいて、地名を示す案内標識と、近くにあるスポットへの方向・距離等を示す案内標識を複合化させた例を示している。

事例

①景観への配慮

複数の案内標識の複合化による整理



別々の案内標識の内容を整理・統合して、一カ所に集約

出典：環境省「自然公園等施設の整備事例集」（平成25年3月）

地域

静岡県小山町

設置状況

富士山登山須走ルート入口

タイプ

壁面パネル

- ・自然公園や交通拠点など、様々な主体が個別に案内標識を整備する場所では、複合化によって景観をすっきり見せることができる。
- ・富士箱根伊豆国立公園内、富士山の須走ルート登山口では、管理者ごとに乱立していた標識類を統合することで、景観の改善や利便性向上につなげている。

4. 整備にあたっての留意点

事例

②ユニバーサルデザイン/バリアフリー対応

ユニバーサルデザイン・バリアフリー対応



資料提供：中尊寺

地域	岩手県平泉町
設置状況	中尊寺境内
タイプ	二本足看板

- ・観光地において、ユニバーサルデザインやバリアフリーに対応した設備等がある場合、案内標識によってその存在を伝えることは重要である。
- ・ここでは、車イスで利用できるトイレや移動ルートを示している。
- ・通訳ボランティアや通訳用ITサービスなどがある場合も、その利用のための受付場所を示すことは、案内標識の整備において留意すべきである。

事例

②ユニバーサルデザイン/バリアフリー対応

ユニバーサルデザイン・バリアフリー対応



▲視覚障がい者に向けて、改札口正面やトイレなどではガイドチャイム、バス乗り場では音声案内を設置。サインは弱視でも見やすい文字・色使いになっている。

▲弱視でも認識しやすいよう、両側に黒のサイドブロックを設置した誘導ブロック。

出典：「季刊ユニバーサルデザイン」29号

地域	静岡県沼津市
設置状況	JR沼津駅北口駅前広場
タイプ	音声案内など

- ・案内する内容だけでなく、案内標識そのものをユニバーサルデザインやバリアフリーの観点で設計することも重要である。読みやすい、分かりやすいようなデザイン上の配慮に加えて、音声や点字など様々な手段で情報を伝えることが理想的といえる。
- ・JR沼津駅北口駅前広場はユニバーサルデザインの考えに基づいて環境が整備されており、視覚障がいがあっても伝わるような音声ガイド等の工夫がされている。

4. 整備にあたっての留意点

事例

③広域観光の視点を持った整備

広域観光の視点を持った整備



地域	長野県長野市
設置状況	JR長野駅
タイプ	壁面パネル

- ・ 一次交通と複数の二次交通との結節点のように、広域観光の拠点になる場所では、案内標識を整備する主体の管轄範囲だけでなく、そこから行ける幅広い観光目的地についての情報案内も求められる。
- ・ JR長野駅は、長野市の観光だけでなく、志賀高原、野沢温泉、上高地、白馬など市外のような観光目的地にとっての起点になっている。そのため、同駅新幹線改札を降りた正面の案内標識では、こうした市外の観光地へ向かう旅行者を想定した情報発信を行っている。

5. 維持管理にあたっての留意点

案内標識は、設置したあと継続的に維持管理していく必要があります。ここでは維持管理における留意点を示します。

①整備主体間の連携

旅行者への情報案内は、特定の主体だけが行うのではなく、その地域の観光関係主体が連携して行う必要があります。特に交通結節点や自然公園などでは、案内標識を整備する主体が複数いることが多く、個別バラバラに案内標識が整備されると統一性や連続性に問題が生じ、旅行者の利便性を損なうことがあります。

こうした場所では、案内標識整備に関わる主体同士が連携し、共通の考え方やルールに基づいて統一的に整備し、維持管理していくことが重要といえます。

②補助媒体の活用

案内標識だけでは十分に案内できないものとして、「即時的な／臨時の情報」「網羅的な／詳細の情報」「旅行者ごとに案内すべき内容が異なる情報」などがあります。こうした情報を伝えるにあたっては、案内標識と併用する補助媒体を活用することも検討する必要があります。前章で示したQRコードなどのICT機器もそのひとつで、ほかにもチラシ、貼り紙、パンフレットなど様々な媒体が考えられます。

こうした補助媒体は、案内標識に比べて設置・修正・情報更新等にかかる費用を抑えられることが多く、維持管理においても大きなメリットがあります。

③シーズンごとの対応

自然環境を舞台とした観光地などでは、夏季や冬季などシーズンによって伝えるべき情報が変わることが多くあります。こうした場所では、案内標識を移動式や付け替え式にするといった工夫で、シーズンごとに適切な情報案内を果たすことができます。

④広告収益による維持管理

案内標識を整備するにあたっては、設置したあとの維持管理を適切に行える経費の確保も必要となります。この経費を確保するにあたり、案内標識に設けた広告スペースによる収益を活用する方法があります。

⑤点検と改善

案内標識を整備した後は、その内容に不備はないか、また破損や不具合が生じていないか等について、定期的に点検し、改善をはかるべきです。外国人旅行者に向けた情報案内であれば、外国人の意見を踏まえるなど、外国人旅行者視点でその案内が機能しているかどうかを評価検証し、改善することが重要になります。

⑥不要となった案内標識の撤去

新設した案内標識への情報の統合や、案内の必要性そのものがなくなること等によって、案内標識が不要になることもあります。管理・点検においてこうした案内標識を見つけた場合は、できるだけすみやかに撤去しましょう。

■関連する他の計画の把握 (p.23)

- ・先行する他の案内標識等の整備事業(道路標識など)に配慮し、情報の重複を避ける必要がある

■管理 (p.35~36)

- ・標識設置後は、標識の機能を適切に維持するために定期的にメンテナンスを行う体制を整えなければならない
- ・汚れや劣化損傷による人的、物的被害が発生することのないよう、定期的な点検は必要である
- ・管理者は街の変化に合わせて、随時、標識に掲載された情報内容の更新を行い掲載されている情報の正確性を維持しなければならない

5. 維持管理にあたっての留意点

事例

① 整備主体間の連携

色やデザインの共有



◀長野市の整備している既存の案内標識の色合い（濃いブルー）。



▲様々な主体が新たな案内標識設置にあたり、既存の案内標識の色調に合わせたものを作ることによって、統一感がとれ目にとまりやすくなる（左はJR駅改札内に新たに掲示されたもの。右は2020年に改修される東口の新標識。いずれも濃いブルーの色調に合わせたもの）。



地域	長野県長野市
設置状況	JR長野駅周辺
タイプ	壁面パネル、貼り紙など

- ・整備主体が異なる場合でも、案内標識の色やデザインを共通化しておくことで、旅行者にとって連続性があり目にとまりやすい案内標識の整備が行える。
- ・JR長野駅周辺では案内標識の整備主体が多いが、徐々に長野市の既存の案内標識の色合い（濃いブルー）への統一をはかっている。



バス乗り場のアイコンの例。こうしたアイコンを統一することも効果的である。

事例

① 整備主体間の連携

車向けの案内標識の活用（松本市街地）



ピクトグラムや英語表記があるため、車向けの案内標識が外国人旅行者への案内にもつながっている事例。（左・中：長野市街地、右：松本市街地）

地域	長野県長野市、松本市
設置状況	道路交通標識
タイプ	プレート（道路交通標識）

- ・観光客向けの案内標識整備においては、道路交通標識の整備を担当する主体・部署との連携も重要と考えられる。車道に設置されたドライバー向けの道路交通標識は、徒歩の旅行者に情報を伝えることもできるためである。このことは標識の乱立を抑制する観点からも重要である。
- ・近年は、レンタカーを利用する外国人旅行者も増加しており、ドライバー向けの案内標識の外国人対応の重要性はより高まっている。

※ 車向け案内標識との連携は、地域における旅行者の動向把握や、地元の理解を得ること等にも配慮し、総合的な施策として検討することが求められる。

5. 維持管理にあたっての留意点

事例

②補助媒体の活用

チラシの活用

駅構内で外国人旅行者向けに配布しているチラシ



アクセスやチケットなどの詳細情報を掲載

地域 長野県長野市

設置状況 JR長野駅

タイプ チラシ

- 案内標識では伝えきれない個別で詳細な情報を伝え、案内所等の負担を軽減するために、特定の旅行者向けのチラシを作り、配布することも有効である。
- JR長野駅では、外国人旅行者向けに英語のチラシを複数配布しており、地獄谷野猿公苑、白馬、志賀高原などの観光目的地ごとの詳細なアクセス・チケット情報を案内している。

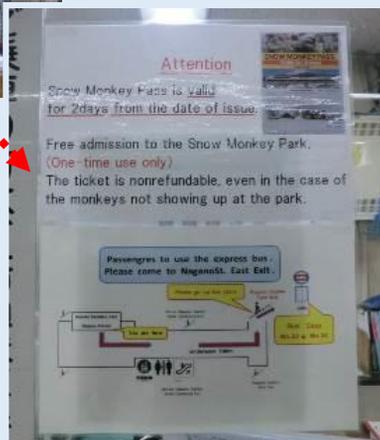
事例

②補助媒体の活用

貼り紙の活用



「スノーモンキーバス」の内容や注意事項、バス乗り場までの移動ルートなど、よくある質問への答えをあらかじめ掲示



地域 長野県長野市

設置状況 長野電鉄長野駅 切符販売窓口

タイプ 貼り紙

- 外国人旅行者からの「よくある質問への答え」は、あらかじめ英訳し、窓口等に貼っておくことで、案内スタッフの負担を軽減することができる。
- 長野電鉄長野駅には、地獄谷野猿公苑を目指す外国人旅行者が専用チケット「スノーモンキーバス」の購入に訪れる。そのため購入窓口に英語の貼り紙をして、バスの内容、乗り場までの移動ルートなどを案内している。

5. 維持管理にあたっての留意点

事例

②補助媒体の活用

パンフレット、店頭のご案内サイン等の活用



▲中町通りの壁面にある地図



▲中町通りで配布している地図を掲載したパンフレット



◀店頭に掲示された案内サイン

地域	長野県松本市
設置状況	中町通り
タイプ	壁面シート、パンフレット、店頭のご案内サイン

- ・松本市街地の観光スポットである「中町通り」では、現地の案内標識として示してある通りの地図情報をパンフレットとしてより詳細に発信すると共に、同様のデザインで店頭のご案内サインも整備している。案内標識やパンフレットを見た旅行者が個々の店を探しやすく、入りやすくするための配慮といえる。

5. 維持管理にあたっての留意点

事例

③シーズンごとの対応

パネルの構造の工夫



表示板面の一部が
取り外し可能に
なっている

地域	長野県飯山市
設置状況	JR飯山駅 駅前ロータリー
タイプ	自立看板

- ・ シーズンによって旅行者の目的地や交通機関のダイヤ・乗り場などが大きく異なる場面では、案内標識の内容をシーズンごとに変えることが理想的といえる。
- ・ JR飯山駅前の案内標識は、表示パネル部分を取り外し可能になっており、グリーンシーズンとスノーシーズンで異なるバス路線に対応できるようになっている。

事例

③シーズンごとの対応

移動式看板の活用



▲グリーンシーズンに駅構内改札前に設置される移動式看板



▲グリーンシーズンの荷物預りサービス案内標識

地域	長野県大町市
設置状況	JR信濃大町駅
タイプ	移動キヤスター付き自立看板

- ・ JR信濃大町駅は、グリーンシーズンになると立山黒部アルペンルートを目指す多くの旅行者が訪れるため、こうした旅行者のための案内標識を移動式のものにしており、シーズン期間中のみ設置している（スノーシーズンは収納スペースにしまっており、ひと目に触れない）。

5. 維持管理にあたっての留意点

事例

④ 広告収益による維持管理

広告収益による維持管理



千葉市の市街地に設置された広告付きの案内標識の例

地域	(各所)
設置状況	(多くの旅行者の目にとまる位置)
タイプ	自立看板(広告付き)

- 案内標識に、地元の飲食店や観光事業者等の広告を掲載することで、維持管理にかかる経費を賄う手法がある。広告料や、広告掲載を前提とした負担金によって、地域として継続的に案内標識を維持管理しやすくなる。

5. 維持管理にあたっての留意点

事例

⑤点検と改善

定期的な点検の仕組み

現況	本体	汚れ
		色落ち・剥がれ
		破損など
		老朽化
	表示面	その他
		汚れ
		色落ち・剥がれ
		表示の最適性
		表示の隠れ
		その他
必要な対応	要清掃	
	要補修	
	要交換	
	その他	

◀ 箱根町の案内標識の点検項目の一例



▶ 箱根町が整備したハイキングコースの案内標識の一例

地域 神奈川県箱根町

設置状況 ハイキングコースなど

タイプ 矢羽根看板など

- ・案内標識は定期的な点検が必要。特に木製のものなど劣化しやすい案内標識の場合は点検が重要となることに加え、塗装や雨掛かり部の処理など設計段階での工夫も求められる。
- ・箱根町では、各案内標識は台帳で管理され、定期点検と清掃の結果を記録している。ハイキングコースでは町の職員が年数回コース点検を兼ねて状況を確認し、必要に応じて塗装の補修も行っている。また掲載されている「情報」に更新の必要がないかも確認している。

出典：「外国人にも分かりやすい県産材案内標識調査報告書」（平成30年度）

事例

⑤点検と改善

定期的な点検の仕組み



▲ 冬季に撤去した案内標識を春に再設置する様子



地域 長野県信濃町

設置状況 森林散策ルート

タイプ 杭型

- ・信濃町では、冬季に雪の重みや除雪作業の影響で案内標識が破損するケースがあるため、毎年春に役場職員が各道路を歩いて設置状態を点検している。
- ・一部の小さな案内標識は、劣化を防ぐために降雪前（11月頃）に撤去して役場内に保管する。また、撤去できない大型看板の場合、降雪前にブルーシートで覆うなどの保全を行う。
- ・こうした活動には役場職員に加え民間の森林保全団体が協力しており、官民が連携して維持管理する体制になっている。

出典：「外国人にも分かりやすい県産材案内標識調査報告書」（平成30年度）

5. 維持管理にあたっての留意点

事例

⑤点検と改善

旅行者視点での検証と改善



▲平成22年度、北陸信越運輸局が長野県の北信・中信地域で実施した外国人旅行者視点によるモニター調査の様子。この結果をもとに、JR長野駅、JR松本駅などの交通拠点の案内標識が再整備された。



- ・整備した案内標識を旅行者視点で評価検証する手法のひとつとして、モニター調査がある。例えば外国人旅行者を想定する場合、英語圏・中国語圏など想定される各言語圏の外国人モニターによって実際に現地を歩くことで、案内標識の問題点や改善の方向性などを確かめることができる。
- ・検証結果については、その地域の自治体や交通事業者等の案内標識整備主体で共有すると共に、これを踏まえてよりよい案内標識を整備することが重要である。



▲平成22年度のモニター調査をもとに改善されたJR長野駅の案内標識の一例。英語表記やピクトグラムの追加、見やすい色使いへの変更といった改善がはかられている。

案内標識 事例集 外国人旅行者にも分かりやすい整備のポイント

発行日：令和2年3月
発行：長野県観光部
編集：特定非営利活動法人SCOP

表紙図製作：藤松建築設計室